

# イタジイの森

2024年  
Vol.46

## ヤンバルクイナの繁殖シーズンがはじまります はやめの草刈りをお願いします!



ヤンバルクイナと草刈りに何の関係があるの...?と思った方も多いかもかもしれません。野生動物の生息環境と人間の生活の場が近いやんばるだからこそ、この2つに関係する困りごとがあります。

草刈りのタイミングを少し気遣ってあげるだけで、ヤンバルクイナの命を救うことに繋がるかもしれません。

### ■ 草刈りの最中に卵が発見される事例が発生しています

2023年の3~5月の間に、畑や庭先などの草刈り中にヤンバルクイナの卵が発見される事例が5件発生しています。巣が人目についでしまうことで、親鳥が巣を放棄してしまったり、長時間離れてしまうことで卵の成長がとまってしまったりと、せっかく生まれた卵がふ化できないことがあります。



▲親が戻ってきやすいよう卵に目隠しをする様子



▲草刈りで発見してしまった卵

やんばる野生生物保護センターでは草刈り中に、卵や巣が発見された場合草などで覆い、親鳥が戻ってくるのを待ちます。もし見つけてしまっても、早めに目隠しをすれば、抱卵を続ける場合がほとんど。実際に親鳥が戻ってきて、抱卵を再開する様子も観察されています。親鳥が戻ってこなかったり、発見されてから時間がたってしまう場合のみ、卵を救護し人工ふ化などを行っています。卵を見つけてしまった場合は、その場から動かさず、そっと草をかけて、やんばる野生生物保護センターへご連絡ください。

### ■ ヤンバルクイナが巣立つまで



#### どうして草刈りを はやめにするといいの??

産卵シーズンに入る前に草刈りを行うことで、人に近い場所に巣を作ってしまうことを防ぎます。また、ハブなどによる人への被害を防ぐ意味でも、こまめな草刈りは有効です。草刈りは、産卵・育雛シーズンに入る3月末までに!

ご協力よろしくおねがいします!

#### 恋の季節ペア探し

1~3月 ▶▶▶▶ ここまでに草刈り!

繁殖相手を探す「クリリリヤー!」という求愛の声やカップルで声を重ねるデュエットが聞こえたら、そろそろ草刈りの準備!

#### 産卵・子育て

4~7月 ▶▶▶▶ ロードキルに注意!

3月下旬~5月にかけて3~5個の卵を産み、3週間程度でふ化します。ふ化後は、親鳥が雛鳥をつれて歩きまわるので、巣は使われなくなります。

#### そろそろ独り立ち...

7~9月 ▶▶▶▶ ロードキルに注意!

親子連れや若い個体が活発に動き回り、道路に出てくる頻度も高まるので、運転にはご注意ください! 生まれて2ヶ月ほど経つと幼鳥は親鳥とほとんど同じ姿になり、独り立ちしていきます。

**お気軽にご相談ください!**  
草刈りをしたら、ヤンバルクイナの巣や卵が出てきました...!  
傷ついた・死んでいる希少種を見つけた...! など  
(クイナダイヤルは救急の傷病救護のみ対応)

☎0980-50-1025

やんばる野生生物保護センター

☎090-6857-8917

クイナダイヤル(NPO法人どうぶつたちの病院沖縄)

5月は  
ヤンバルクイナの  
STOP!ロードキル  
月間です!

## 「やんばる野生生物保護センターウフギー自然館」は、 「やんばる世界遺産センター ウフギー自然館」にリニューアルします!

本館では、1999年4月以来、やんばる地域の自然環境の保全、希少野生生物の保護に関する事業の他、地域の方を含め広くやんばるの自然や生き物の重要性について知っていただくために、展示見学等の利用者への案内、講演会・観察会の開催など普及啓発業務を行ってきました。

今回、2021年7月26日に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録されたことから、これまで野生生物保護センターが担ってきた機能に加え、世界自然遺産に関する情報を充実させた施設に改修を行います。改修工事のため、2024年5月6日(月)から閉館し、リニューアルオープンは2025年7月以降を予定しています。

- ※ リニューアルオープンの時期については、決定次第お知らせします。なお、講演会・観察会の開催は、閉館中も通常通り実施いたしますのでホームページやFacebook等をご覧ください。
- ※ センター併設のやんばる自然保護官事務所は場所を移動し今まで同様の業務を行います。

⚠ 工事中にご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解の程よろしくお願いいたします。



休館中も傷ついている・死んでいる希少種の救護は通常通り行います

やんばる野生生物保護センター  
マスコットキャラクター  
クイちゃん&キューちゃん

## 沖縄県によるロードキル対策 近年の新たな取り組み



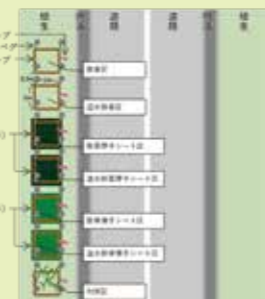
道路脇の草が生い茂っていると、動物の視界もドライバーの視界もさまたげられ、交通事故が起こりやすくなってしまいます。しかし、やんばるの温暖湿潤な環境でぐんぐん伸びる草を短い状態で維持管理するのは一苦労。そこで、沖縄県自然保護課では、道路沿いの効果的な除草手法を検討しています。

### 除草手法の検討

草がない状態を継続させるのに、最も効果的な方法は何か。2022年度事業では、除草の仕方や環境の違い、防草シートの厚さ等、条件を変えた調査区を道路沿いに設置し、植生の回復を比較しました。



草が生い茂った道路



除草手法検討のための調査区配置

### 結果

調査結果から、草刈り機による除草+薄手の防草シートによる手法が生態系への影響やコスト面で持続可能で最も効果的であることがわかりました。

### 今後の取組

2023年度はこの手法をより広範囲に展開し、2024年度以降はその効果をモニタリングしていく予定です。



## 沖縄島北部における マングース防除事業について



特定外来生物であるファイリマングース(以下「マングース」)(写真1)は、1990年代にはやんばる地域に侵入したと考えられています。

マングースの分布拡大に伴い、ヤンバルクイナなどの希少な在来種の分布域の縮小や生息数の減少が明らかになりました。

このため、沖縄県と環境省が連携して、わなの改良やマングース北上防止柵の設置、探索犬の導入など試行錯誤を重ねながら、マングースの防除事業を実施しています。



写真1: 道路を横断するマングース

2022年度は塩屋湾と福地ダムを結んで設置されている第一北上防止柵(通称:SFライン)から北側で58頭のマングースが捕獲されました。最も捕獲数が多かった2007年度に比べると10分の1程度となり、SFライン以北で低密度な状態を維持できています。(図1)

また、SFライン以南の第一・第二北上防止柵に挟まれたエリアでは、2015年度以降初めて捕獲がなく、第二・第三北上防止柵に挟まれたエリアでも299頭と捕獲数は減少傾向です。(図2)

マングースの減少に伴い、希少な在来種の生息状況が回復してきています。

1980年代に大宜味村塩屋から東村平良以北に生息していたとされているヤンバルクイナは、2000年代には国頭村と東村の一部にまで生息域が減少しました。

しかし、近年は東村や大宜味村においても生息域の回復が見られています。(図3)

2023年7月には、名護市の源河で沖縄県が設置したセンサーカメラにヤンバルクイナが撮影され、大きなニュースとなりました。

オキナワイシカワガエル(写真2)は、1980年頃は名護市などでも確認されていましたが、2010年頃になると分布域が縮小し、大宜味村、東村でも確認できない地域がありました。

しかし、大國林道周辺の調査では、2020年頃には2~4kmほど分布域が回復し、玉辻山周辺で再び確認されるようになってきています。(図4)

オキナワトゲネズミやケナガネズミも、2008年度以降、新たな生息地点が確認されていることから、徐々に分布域が拡大していると考えられます。

今後、マングースの排除が進むことで、これらの希少な在来種の生息域のさらなる回復が期待されます。

環境省と沖縄県はSFライン以北からマングースを完全排除するため、引き続き防除作業を行ってまいります。

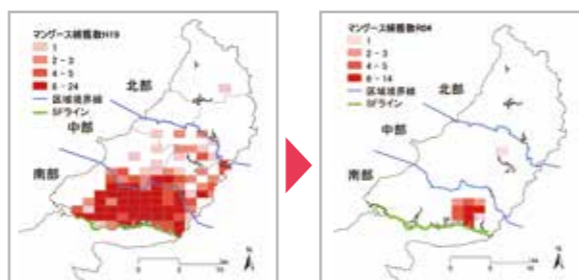


図1. SFライン以北におけるマングース捕獲状況(左:2007年度、右:2022年度)

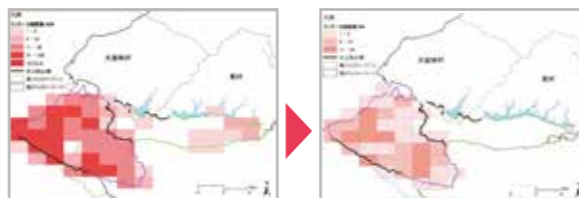


図2. SFライン以南におけるマングース捕獲状況(左:2017年度、右:2022年度)

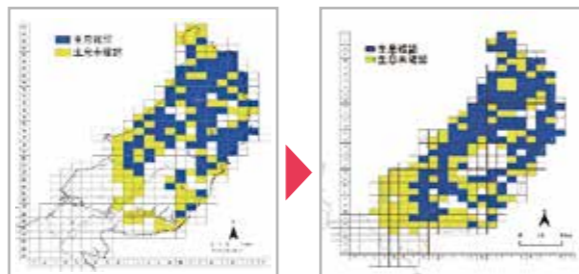


図3. ヤンバルクイナの生息確認状況(左:2007年度、右:2022年度)



写真2: オキナワイシカワガエル



図4. オキナワイシカワガエルの生息状況  
※確認地点から大きめに線をひいたもの



マングースの生息密度が低下している今、残った個体を排除していくためには、地域の皆様が目撃情報が非常に重要になります。もし、やんばる地域でマングースを見かけましたら、**環境省やんばる野生生物保護センター(TEL:0980-50-1025)**までご連絡ください。

## 特定外来生物の目撃情報募集中!



ツルヒヨドリ・ナガエツルノゲイトウ・ボタンウキクサの駆除を進めるため、目撃情報を募集しています。見かけたらご連絡ください!可能なら写真の撮影をお願いします。

**環境省やんばる野生生物保護センター(TEL:0980-50-1025)**

### 特定外来生物とは?

外来生物法により、海外由来で特に被害を及ぼすおそれが高い種が**特定外来生物**に指定されます。生きた状態での運搬や栽培、飼育などが規制されています。

※正しく処理すれば許可が無くとも駆除することができます。環境省やんばる野生生物保護センターまでご相談ください。

#### ■ ツルヒヨドリとは…

南北アメリカの熱帯地域原産で、つるで絡みつきながら猛烈な勢いで拡がり、他の植物を覆ってしまうため、覆われた植物は枯れてしまいます。やんばる地域でも広範囲で確認されており、行政や地域住民の協力により防除を進めています。



ツルヒヨドリに覆われて枯れたシークワサーの木



葉脈が中心に集まる



冬に小さな花を付ける

#### ■ ナガエツルノゲイトウとは…

南アメリカ原産で、主に水辺を好みますが、畑でも生育が可能な植物です。数cmの茎の断片からでも再生します。やんばる地域では畑を中心に拡がっており、草刈りが困難になるなどの被害が発生しています。



#### ■ ボタンウキクサとは…

アフリカ原産の水草です。観賞用として導入され、やんばる地域では主に河川に広がり、庭先の水槽などでも確認されたことがあります。



## 国頭村による 特定外来生物(ツルヒヨドリ) 防除業務について

国頭村においてツルヒヨドリが確認されている地点は、23地点あります。現在、環境省や沖縄県を含め様々な関係機関と防除に取り組んでおります。国頭村でも3地点の防除及び5地点のモニタリングを行っており、次年度においても新規確認地点も含めて対応していきます。



## やんばる自然体験活動協議会

【構成団体】国頭村・大宜味村・東村・沖縄県環境部・環境省沖縄奄美自然環境事務所

やんばる野生生物保護センター「ウフギー自然館」  
〒905-1413 沖縄県国頭郡国頭村字比地263-1  
TEL:0980-50-1025  
FAX:0980-50-1026

2024.3.発行